ばれいしょそうか病対策について

西之表市農林技術指導者連絡協議会
園芸振興協議会種子島支部

ばれいしょそうか病とは



○ 主な伝染源
種いも、土壌伝染（土壌、被害残さ）

○ 発病条件
【土壌pH】**土壌pH5.0以上**を好む。
【土壌湿度】**土壌が乾燥**している時に多発しやすい。

◎発生は年次によって大きく変動し気象要因の影響を大きく受ける。
◎塊茎形成～肥大期に地温が高く、少雨乾燥の年に多発しやすい。

防除の４つのポイント

☑ 畑の状態を知ろう！

☞定期的に土壌診断を実施し、
土壌pHの把握、
過剰な石灰施用は避けましょう。
（pH5.5を超えないように）

☑ 畑での増殖を防ごう！

☞転作や輪作により、病原菌の密度低下を図りましょう。
（イネ科作物、マメ科植物等）
☞**土壌消毒の徹底**（クロルピクリン等）

☑ 畑への侵入を防ごう！

☞**種イモ消毒**は必ず行いましょう。
☞**人・機械**を洗浄し、土の移動による菌の持ち込みを防ぎましょう。

☑ 乾燥時は潅水しよう！

☞畑かん施設等を有効活用し
塊茎着生から４週間(植付後60～90日）は土壌水分を確保しましょう。

ばれいしょそうか病は、土壌中に長期間生存でき、条件が揃うと多発します。上記の４つのポイントを押さえ防除の徹底に努めましょう！

【問い合わせ先】西之表市役所農林水産課、西之表営農販売課、熊毛支庁農政普及課
R8.8 作成